

ぶっちぎりでラリーを制した新井大輝／小坂典嵩組。第4戦に続くシーズン2勝目を獲得した。



新井大輝／小坂典嵩組が復帰後グラベルラリー初制覇！

全

10戦が組まれる2019年の全日本ラリー選手権は、7月5～7日に行われた第6戦ARKラリー・カムイでシリーズを折り返した。前戦のモンレーに続いて今回もグラベルラリー。グラベル4連戦の2戦めに当たる。

HQ、サービスパーク、スタート&ゴールが置かれたのはニセコ町のニセコ・アンヌプリ国際スキー場。ラリーは同地の西に位置する蘭越町のグラベルステージで競われた。LEG1は「NEW SUNRISE」(3.68km)、「STREAM」(10.94km)、「SCHUNK」(14.05km)をそれぞれ2回走る6SS、57.34km。LEG2は、7.13kmの「KNOLL REVERSE」そして今大会最長の23.09kmの「ORCHID」を2回ずつ走る60.44kmのSSが用意され、2日間で117.78kmを走り込むロングディスタンスラリーとなった。

15台が参加したJN1クラスは第4戦から参戦開始した新井大輝／小坂典嵩組が、ラリー開始早々から衝撃のスピードを見せる。3.38kmのSS1で2番手の新井敏弘／田中直哉組をキロ1秒も引き離すベストを奪った新井大輝組は続くSS2もベスト。

圧巻は14.05kmのSS3で、再び2番手に甘んじた新井敏弘組を12.8秒も突き放して断トツの首位に立つ。「モンレーの後で見直した足回りのセットアップが効いて予想以上にいい動きをしてくれるので、そんなに無理をしなくてもタイムを出せるようになった」と大輝選手は十分な手応えを掴んだ様子だ。

2ループ目に入ると、エンジンが不調をきたしてペースが上がらない新井敏弘組に代わって鎌田卓麻／鈴木裕組が、「サービスでサスペンションのセッティングを変更したらアタマが入るクルマになった」と、SS5でベストを奪い、ようやく新井大輝組の独走に待ったをかける

JN1 / 1. 欧州のラリー界で採まれた速さを再び見せて優勝を飾った新井大輝選手。2. LEG2は2番手で上がった坂田原文雄／佐藤忠宜組は3位入賞。3. LEG1序盤の躓きが悔やまれる鎌田卓麻／鈴木裕組は2位を確保。

が、SS3の再走となったSS6でも新井大輝組は終盤、スロットルのトラブルに見舞われながらも再びベストを奪い返して、2番手の鎌田組に23.4秒の差をつけて折り返した。

明けたLEG2。砂利掻き役を強いられる不利な先頭ゼッケンで走行する新井大輝組に、ライバルがどこまで迫るかが注目されたが、この日





JN2・JN3 / 4. JN2はグラベルマイスター上原淳／漆戸あゆみ組が今季初勝利を飾った。5. JN2にエントリーのヘイキ・コバライネン／北川紗衣組は2位に入賞。6. JN2ポイントリーダーの眞貝知志／安藤裕一組は3位に甘んじた。7. LEG1のリードを守り切ってJN3で今季4勝目獲得の山本悠太／山本磨美組。8. JN3で3位入賞の山口清司／島津雅彦組。9.10. JN3で2位に入る健闘を見せた大竹直生／竹下紀子組。



JN4・JN5・JN6 / 11. グラベルラウンドに入っても圧倒的な速さを見せ続けるJN6大倉聡／豊田耕司組は開幕6連勝を達成。12. JN5は天野智之／井上裕紀子組がマシンを痛めてリタイアに終わった前戦モンレーのリベンジを果たした。13.14. JN4はグラベル4連戦で形勢逆転を狙う関根正人／草加浩平組が狙い通りにグラベル2連勝。15. JN5で連勝を狙った岡田孝一／石田一輝組だが、2位にとどまった。16. RX-8で孤軍奮闘する中西昌人／福井林賢組がJN6で2位入賞。17. JN4高橋悟志／古川智崇組はLEG1のリードを守って2位を死守した。18. JN5で3位入賞は松原久／和田善明組のデミオ。19. JN6いとうりな／大倉隼組は3位に入り、2戦連続の表彰台をゲット。20. 今季はグラベルにターゲットを据えるJN4古川寛／大久保敬組は3位に入賞。21. OP-1で優勝の山田政樹／村木花奈江組。22. OP-2は金藤公人／宇野祐哉組が制した。



最初のステージとなるSS7で鎌田組がパンクで大きくタイムロス。一方の新井大輝組はここでもベストを奪って独走態勢に。最大の山場と見られた23kmのORCHIDステージもともにセカンドベストで上がってゴール。復帰後、グラベルステージでの初の勝利をもぎ取った。

一方、JN4クラスは山本悠太／山本磨美組と曾根崇仁／竹原静香組が、前戦モンレーのホットバトルを再現するかのようなマッチレースを展開した。今回、ラリーを先行したのは、モンレーでは「スロースターター」だった山本組の方で、SS1、SS2を連取するが、14kmのSS3は2台まったくの同タイムでゴールする。曾根組の反撃はSS5からで、SS3の再走となるSS6も山本組を1.5秒上回るベストを奪取。山本組に6.6秒差まで詰めて折り返す。

LEG2に入っても曾根組の速さは衰えず、「ORCHIDに比べれば距離は短い、意外とポイントになる」と踏んだSS7 KNOLL REVERSEでベストを取ってその差を4.0秒まで縮めるが、勝負所ORCHIDは山本組が5.2秒引き離す渾身のベスト。2回めのORCHIDで一発逆転を狙った曾根組だったがドライブシャフトのトラブルでゴールは叶わず。逃げ切ってグラベル2連勝を果たした山本悠太選手は「集中力を切らさないことが大事なラリーだったので、とまかく疲れました」と苦戦のラリーを振り返った。そして2位にはまだ10代の新人、

大竹直生選手がコ・ドライバーの竹下紀子選手とともに入賞した。

その他のクラスでは、JN2、JN4はともにモンレーと同様の展開となり、JN2は上原淳／漆戸あゆみ組、JN4は関根正人／草加浩平組のグラベルマイスターが連勝を飾っている。またJN5クラスは、モンレーで連勝がストップした天野智之／井上裕紀子組が今回はライバルを寄せ付けず、シーズン5勝目をマーク。JN6クラスでも大倉聡／豊田耕司組が今回も隙を見せない走り開幕からの連勝記録を6に伸ばしている。